

ナイジェリアに関する 舞踊人類学の動向 — 60~70年代を中心に —

遠藤 保子

問題提起

舞踊人類学は、60年代にレーンがひかれ、70年代に活発になった、という石福恒雄氏^{*1}の指摘がある。そこで本稿では、この60~70年代を中心に、ナイジェリアに関する舞踊人類学の動向をさぐり、今後の舞踊人類学の研究の指標を得ようとするものである。

研究手順として、(I)ナイジェリアに定住している研究者の研究動向、次に(II)ナイジェリアに定住していない外国人研究者の研究動向を検討したい。これは、両者の研究成果を分析することにより、舞踊人類学研究の新しい視点が、明確化できると思われるからである。

(I) 定住研究者の研究動向

60~70年代のナイジェリアにおける舞踊の学問的研究は、一般的には、祭りや宗教、儀式等の一要素として記述、検討されている。

例えば、E.イドウIdowu^{*2}によれば、厳粛な儀式や祈り、祭りには、踊る場所があり、その時の踊りは、ステップが決まっていて、音楽のリズムに呼応しながら感情をたかめていく(p.115)とされる。また、F.アウォラルAwolalu^{*3}は、舞踊は礼拝する時の一要素と考え、礼拝の行為は、1)礼拝式…祈りや音楽、舞踊も含む、2)犠牲、3)礼拝を司る人、4)神聖な場所、と4分類され(p.99)、礼拝の舞踊は、神々によって決まった形式をとり、それは象徴的で、しばしば神聖なものの再現である、とされる。両者において舞踊自体の構造や機能分析はあまりなされていない。

舞踊が比較的とりあげられている「ナイジェリアマガジン」^{*4}をみると、60年代ではR.ホートンHorton^{*5} “客としての神々”, U.バイヤーBeier^{*6} “アグボーダンサー”, P.ステーブンスStevens^{*7} “オリシャンラ祭り”(以下、文献一覧^{*8-10})。

70年代では、A.ユスフYusufu^{*11} “アルグング祭り”, E.モロフンフォラMorohunfora^{*12} “イグビラ文化 — エク祭り”, O.フバラFubara^{*13} “オウ・アルサン祭り”(以下、文献一覧^{*14-16})。これらの多くが、様々な町や村における祭りのスケジュールをたどりながら、その中で踊られる舞踊を短く言及している。これらはあくまで祭りが

研究の中心であるが、舞踊を研究課題の中心にすえた研究者に、P.ハーバーHarperがいる。

ハーバーは、イフェ大学で舞踊の研究に従事し(現在は英国在住)、前述した「ナイジェリアマガジン」にも執筆^{*10}し、又、イフェ大学の研究雑誌「オドウOdu」^{*17}においてもヨルバのひとつの村イジョで行なわれたゲレデgelede儀式に焦点をあて、その中にみられる舞踊の機能を考察している。

例えば、ゲレデ儀式においては、その村における女性観やヨルバの神々について触れ、そこにみられる舞踊の動作は、日常動作と深くかかわりあっているという。例えば、イジョの村人は、頭上で物を運ぶため、胴体はまっすぐで少し前傾し、腰は強く、膝が曲がっていて少しはずみをつけて歩く。これが舞踊の基本姿勢となっている(p.69~70)。また男性は力強く、威厳があるように腕や胴体を振るのに対し、女性はフット・ワークの動作が多く、男性よりもっと流れるように踊る等踊りにも男女間の性差が浮きばりにされている。こうしてハーバーは、舞踊現象の詳細な文章記述、歌詞内容、太鼓や仮面の説明を加えながら、これらの儀式によって人々は、日々の生活のストレスや抑圧を軽減し、日常生活のバランスを保とうとしているとした。最後にナイジェリアの社会における舞踊は、反復を基本にした表現行動によって、村人の身体と心と感情を統合し、トランスの状態をつくりだし、宗教的移入をうながす重要な要素であると結論づけている。(p.91)

(II) 定住していない外国人研究者の研究動向

舞踊を村人の思考法や世界観との関連で、精緻に検討したJ.ハンナHannaと、舞踊現象を理解しやすいグリフノーティションで分析したJ.ケアリノホモクKealiinohomokuをとりあげてみたい。

J.ハンナ^{*18}は、ウバカラ(イボ族)の舞踊をフィールド・ワークしたが、ウバカラの舞踊は、喜びや共通認知や価値の再強化、社会的結束の再認識、緊張緩和のために踊られる、とした(p.163)。ハンナの研究では、舞踊の中に表現されている①5つの世界観の原則、②社会的事件に対するパラドックス的考え方の潜在性、③舞踊のコミュニケーション;言語的特性を持ったサイバネティックな舞踊の可能性という三点を中心に論が展開し、それらが舞踊にどのように反映しているのかを検討している。

またJ.ケアリノホモクKealiinohomoku^{*19}は、機能や形式、意味、物質文化等における変化は、学習された行動にはあまり影響を与えていないのではないか、という仮説をたて、奴隷として売買された子孫のアフロアメリカ人と、ヨルバ人の舞踊を比較、検討した。ケアリノホモクは、実際にヨルバでフィールド・ワークに従事したかったが、

舞踊フィルムを通して、アフリカの舞踊特性を抽出し、南部のアフロアメリカンにアフリカの要素が強く、アフリカニズムは、日常動作より舞踊の動作に強くあらわれるとした。(p.161)

紙面の関係上、ここでは言及できないが、コロメトリックスという舞踊計量学を唱えたA.ローマックス Lomax*²⁰、音楽的見地からA.キング King*²¹等がいる。

結 語

今まで、ナイジェリアに関する舞踊人類学の動向をみてきたが、現地に定住しながら行なったハーパーの研究は、ある限られた社会とその社会における舞踊とのかかわりを検討するケース・スタディであり、その研究の価値がでてくるのは、同じような視点でなされた研究が数多く報告され、ナイジェリアの舞踊について一般化できる時である。そしてまた、フィールド・ワークによる外国人研究者；ハンナのような精緻に考察された人々の思考法、世界観を加味し、文章記述ではわかりにくい舞踊現象をケアリノホモクのような記述法を用いることによって、ある社会の舞踊の全体像が浮きぼりにされると思われる。

このように今後の舞踊人類学は、現地研究者と外国人研究者の国際的、学際的協力を通して、また、関連諸分野の精緻な方法論の検討によって、新しい研究の指針が得られるであろう。

文 献 一 覧

- * 1 石福恒雄；舞踊の人類学 — 展望と試論 — 舞踊学No.5, p.40~41, 1982.
- * 2 IDOWU E. B.; Oloadumare—God in Yoruba Belief—Nigeria London 1962 p.215.
- * 3 AWOLALU F.O.; Yoruba Beliefs and Sacrificial Rites, Great Britain Longman 1979 p.197.
- * 4 Nigeria Magazine Department of Culture, Federal Ministry of Youth, Sports and Culture Lagos.
- * 5 HORTON R.; The Gods as Guests(Special Publications) 1960 p.71.
- * 6 BEIER U.; Agbor Dancers No83 1964 p.240~248.
- * 7 STEVENS P.; Orisha—Nla Festival No90 1966 p.184~199.
- * 8 OKESOLA E.; The Agbo Festival in Agbowa No95 1967 p.293~300.
- * 9 EYO E.; Abua Masquerades No97 1968 p.86~100.
- * 10 HARPER P.; Dance and Drama in the North No94 1967 p.219~225.
- * 11 YUSUF A.; Arugungu Festival No103 1970 p.573~582.
- * 12 MOROHUNFOLA E. A.; Igbirra Culture —The Eku Festival—No105 1970 p.94~97.
- * 13 FUBARA O.; Owu Arusun Festival No113 1974 p.3~13.
- * 14 OJO J. R. O.; Amerun Yanyan, an Osanyin Festival in a small Ekiti Town No121 1976 p.50~60.
- * 15 著者不明; Nigerian Dances No117~118 1975 p.50~95.
- * 16 著者不明; Nigerian Dances No119 1976 p.1~22.
- * 17 HARPER P.; The Role of Dance in the Gelede Ceremonies of the Village of Ijio in Odu No4 Univ. of Ife Press and Oxford Univ. Press 1970 p.67~91.
- * 18 HANNA J. L.; To dance is Human — A theory of Nonverbal Communication Austin and London 1980 Univ. of Texas press p.269.
- * 19 KEALINOHOMOKU J. W.; A compative Study of Dance as a Constellation of Motor Behaviors Among African and United States Negros, CORD Dance Research Annual VII 1967 p.1~180.
- * 20 Lomax A.; Folk Song Style and Culture Transaction Books New Brunswick 1968.
- * 21 King A.; Yoruba Sacred Music from Ekiti Ibadan Univ. Press 1961.